

鱗形

前

ワキ 北条時政

ワキヅレ 時政従者

シテ 女人

後

シテ 弁財天

地は 相模

季は 雑

ワキ次第

「八百万代を治むなる。く。弓矢の家ぞ久しき。

詞

「そもく是は北条の四郎時政にて候。我弓矢の家に生るゝといへども。いまだ旗の紋定まらず候ふ程に。江の島の弁財天に此事を祈り申さん為め。唯今参詣仕り候。

サシ

「それ弓矢は天地陰陽をかたどり。七徳五行の姿なり。

一同

「されば神農の作りし桑の弓。怨敵破戒を滅ぼして。

ワキ

「国家の為となすとかや。

一同

「又は仏法王法の。く。静かなる国となる事も。一張の弓の勢。月心にあり。是ぞ真如の櫛弓の。悪魔もいかで恐れざる。く。

ワキ詞

「急ぎ候ふ程に。是は早江の島に着きて候。まづく社壇に参らばやと存じ候。

シテ詞

「なふく時政に申すべき事の候。

ワキ詞

「不思議やな人家も見えぬ方よりも。女性一人顯は

れて。我名をさして宣ふは。何といひたる事やらん。

シテ「愚かの仰せ候ふや。年月歩みを運びつゝ。信心深き其故に。望みをかなへ申さん為め。是まで顕はれ来りたり。

ワキ「そもや望みを叶へんとは。如何なる人にてましますぞ。

シテ「いや我名をば名乗らずとも。御身信の志深く。

ワキ「神を敬ふ恵みにて。

シテ「国も豊かに。

二人「民栄え。

地「治まれる。御代のしるしも今更に。く。見えて栄ふる蘆原の。国なれや降る雨も。時をたがへぬ此君の。千年をかけて御注連縄。永くも代々を守るなり。く。

ロンギ地「実にや誓ひの数々に。御代を守りの御告とは。如

何なる人におはします。

シテ「今は何をか包むべき。我此島に跡を垂れ。

地「潮の落つる暁は。沖の鷗に心そへ。汀の千鳥鳴く
田鶴も。和光の影の数々に。かき集めたる藻塩草。
夜の汀を待ち給へ。望みを叶へ申さんと。いふか
と見えて其まゝ。社壇に入らせ給ひけり。く。

(中人)

地「御殿しきりに鳴動して。日月光り雲晴れて。山の

端出づる如くにて。顕はれ給ふ有難さよ。

後ジテ

「我は是れ此島を守護し衆生を助くる。胎蔵界の弁
財天とは我事なり。

地

「晴れたる空に旗さしの。名も久方の月の桂も。手
に取るばかり弓矢の。家を守りのしるしぞと。時
政に旗をたび給ひ。数々の童子神楽の役々。月も
照り添ふ花の姿。雪を廻らす袂かな。

シテ

「謹上。

地「再拝。」（神樂）

地「かくて夜遊も時過ぎて。く。我世の中にあらん程。たとひ四敵の寄せ来るとも。此旗をさし上げば。我神通の身を現じて。六通三明の剣を引つ提げ。無明懺悔の敵を払はゞ。其身も息災安穩なるべし。唯信心を致すべしと。あらたに神託なし給ひ。天女は御殿の扉をひらきて。御帳の内にぞ入り給ふ。」